

令和5年度木更津市生涯学習推進協議会第1回定例会 議事録

- 1 会議名 令和5年度木更津市生涯学習推進協議会第1回定例会
- 2 開催日時 令和5年7月31日（月） 午後2時00分～4時00分
- 3 開催場所 木更津市役所朝日庁舎 会議室E
- 4 出席者名 委 員：山崎誠会長、桂啓之副会長、鵜田桂子委員、秋元豊委員、中尾崇委員、
橋詰清委員、石井一弘委員、原直人委員、平野正善委員、小林路秋委員、
内田慎一郎委員（11名）
事務局：廣部昌弘教育長、秋元 淳教育部長、鈴木和代教育部次長兼文化課長、
鈴木玲子生涯学習課長、山下理係長、地曳由起会計年度任用職員（6名）
- 5 協議事項・報告事項
（1）令和5年度教育委員会基本方針、生涯学習の基本目標・政策・重点施策および生涯学習関係事業について
① 令和5年度教育委員会基本方針について
② 令和5年度生涯学習の基本目標・政策について
③ きさらづ市民カレッジ
④ 生涯学習バス「まなび」の運行状況
⑤ きさらづ出前講座
（2）その他
- 6 会議の公開・非公開の別及び傍聴人の数 公開・傍聴人0名
- 7 配布資料 令和5年度木更津市生涯学習推進協議会第1回会議次第
令和5年度木更津市生涯学習推進協議会第1回会議資料
第3期木更津市教育振興基本計画
令和5年度重点目標・施策
木更津市第3次教育大綱

8 会議の概要

事務局

会議に先立ちまして、ただ今より木更津市生涯学習推進協議会委員の委嘱状交付式を執り行います。本協議会の任期は、令和4年4月1日から令和6年3月31日までございますが、ご推薦団体の役員改選等により1名の委員が変更となりました。お名前をお呼びいたしますので、恐れ入りますが自席でご起立ください。

なお、委嘱状交付につきましては、市長代理として教育長から行います。

委嘱状交付— 廣部教育長

介添え—秋元部長

名前読み上げ—鈴木課長

事務局

ありがとうございました。以上をもちまして委嘱状交付式を終了いたします。

それではただ今より、木更津市生涯学習推進協議会第1回定例会を開催いたします。本日、委員12名中11名の出席であり、欠席は1名であります。会議の成立要件については、生涯学習推進協議会設置要綱に特に規定はありませんが、委員の2分の1以上の出席をいただいております。なお、本会議は木更津市審議会等の会議の公開に関する条例により公開されております。本日の傍聴人はおりません。以上報告させていただきます。

それでは最初に山崎会長よりご挨拶をいただきたいと存じます。

山崎会長

皆様こんにちは。昨年度から担当させていただいております、よろしくお願い致します。生涯学習とは、あらゆる人に生涯を通じて学習する環境を整えていくものです。時代に即し、時代の変化の中で生きていくために必要な色々な知恵を得るための、幅広い分野の学習を支えることにより、人の力を育み、木更津市の発展を少しでもお手伝いさせていただきたいと思っております。どうぞよろしくお願い致します

事務局

ありがとうございます。続きまして、廣部教育長よりご挨拶を申し上げます。

廣部教育長

ただ今、新委員ということで内田愼一郎様に委嘱状をお渡しさせていただきました。新しいメンバーとなりましたが、是非本年度も生涯学習推進協議会をよろしくお願い致します。

昨日の7月30日に、木更津市の行事として、本日議題にあります市民カレッジ、博物館のサポーター養成講座、それから地域学講座「木更津風土記-鹿と猪の骨の違いについて-」がありました。今年から博物館長をお願いしております谷畑美帆館長が骨の専門家という事で、学校にも何校か講義をしていただいております。地域活動に非常に意欲的でいらっしゃいますので、是非お声をかけていただければと思います。それから文化課主催の陸上自衛隊第1音楽隊コンサートについては700人という方々にお集まりいただきました。お申込みは1500人だったと聞いております。

先程会長から、生涯学習についてのお話がありましたけども、木更津市の場合、学校教育の第1の目標が「学習習慣の形成」となっております。自分で目標を決めて学習に取り組むという姿勢が、人生の豊かさに繋がっていくのではないかと取り組んでおります。生涯にわたって学習に前向きに取り組む姿勢というのは、自分自身の豊かな人生に繋がるのではないかと考えています。私も今年のきさらづ市民カレッジに参加して

いるのですが、非常に興味深く聞かせていただきました。私も新しい道が開けたなと思うことが出来ました。是非皆さんもさらに興味を示していただいて、参加していただければいいなと期待する次第でございます。

後程担当者からも説明させていただきますけども、生涯学習推進協議会、本日の議題の中心としましては、きさらづ市民カレッジや生涯学習バス、出前講座等、木更津市が取り組んでおります生涯学習に対して様々な立場でご意見をいただきながら、本市の事業に活かしていきたいと思いますので、是非忌憚のないご意見を頂戴できれば大変ありがたいと思います。ぜひ今後とも、ご支援のほどよろしくお願い申し上げます。冒頭のご挨拶とさせていただきます。本日はよろしくお願いします。

事務局

ありがとうございます。

続きまして年度が替わりましたので、事務局職員を紹介させていただきます。

事務局職員紹介

引き続き、委員の皆様におかれましてもお手元の名簿順に自己紹介をお願いします。

委員自己紹介

事務局

それでは議事に入ります。生涯学習推進協議会設置要綱第6条により、会長に本会議の議長として今後の議事進行をお願いしたいと存じます。山崎会長、よろしくお願いいたします。

山崎会長

はい、ではこれより進行を務めさせていただきます。まず最初に、令和5年度教育委員会基本方針、生涯学習の基本目標、政策、重点施策、生涯学習関係事業、についてです。事前に資料等は送付されておりますが、事務局から説明を受けた後、質疑の時間を設けたいと思います。それでは事務局より説明をお願いします。

事務局

事務局からの説明

(教育委員会の基本方針、生涯学習の基本目標・政策・重点施策、生涯学習関係事業「きさらづ市民カレッジ」「生涯学習バス」「きさらづ出前講座」等について)

山崎会長

ありがとうございました。生涯学習の基本方針、具体的なところではきさらづ市民カレッジ、生涯学習バス、出前講座の3つの大きな取り組みがあったと思いますけど、ただ今の説明につきましてご質問あればお願いします。橋詰委員は今回の市民カレッジは出ていますか？

橋詰委員

4年前までの講座は毎回出ていたのですが、今年は参加していません。でも参加したいと感じました。ただ、せっかくだから、木更津高専の講座は高専で出来たら良いと思います。

廣部教育長

今年はまだ申し込みば参加できますか。

生涯学習課長

はい、参加できます。

廣部教育長

定員を超えた申し込みは断っているのですか。

生涯学習課長

地元学コースについては会場の定員を越しているので、動画視聴のみという形で受け付けております。清和大学・清和大学短期大学部コース、木更津高専コースについてはまだ席がございます。

秋元委員

すみません、1点質問があります。資料を見ますと、きさらづ市民カレッジの受講の

きっかけは「広報きさらづを見て」が1番で、あとは市のホームページと房総ファミリア等の新聞が中心、あとは公民館でのチラシとか、回覧板とか、非常に広報きさらづに比べると選択数が少なくなっています。私ども八幡台地区で、自分たちなりに広報のあり方を検討して、地区全員にアンケートを取ったことがございます。自治会の回覧板を回してそれをきちんと読んでいただいている方が15%から20%しかいませんでした。自治会へ加入しているのが地域の70%から80%程度ですから、その他の人は情報が一切入らないというのが現実となっています。これを見ますとやはり広報きさらづは皆さん、ある程度関心はあるのかなと感じます。なので、それ以外の広報の仕方の有無が問題になるのではないかと感じております。私、公民館運営審議会委員で、公民館は様々な活動をしていますが、その活動の中身を、地域全体に知らしめることが出来ない、それをどうしていくのかということを、ずっと苦悩しております。それで、公民館だよりを各学校のクラスに貼って貰っております。このきさらづ市民カレッジ、言葉だけだとなかなか難しそうですけど、中身は相当良さそうなものがあるのだから、それをかいつまんで中高生向けに学校でポスターを貼ったり、ダメだったら学校で教室の後ろに貼るとか、そういう宣伝活動をしない限りは、なかなか人が増えないんじゃないかと思っています。この情報が多くの市民に流れれば、もっともっと人が増えていくはずなので、今一部の人にしか情報が流れていないと思われる中で、100~200人も人が集まっていますので、これをもっと広げる意味で、少し難しいとは思いますが、検討して頂きたいと思っています。今後そういう考えがそちらにあるのかどうか、どうするのかをもし検討していれば教えてください。

事務局

中学校には木更津高専コースについて2回広報を依頼いたしました。また、毎回、講師にお願いしてホームページやFacebook掲載用のPR文章を作っていただいて広報しており、随時申込者数が増加している状況であります。

秋元委員

前向きに色々、失敗しても良いから、発信をしていただきたい。意外と、中学生・高校生って興味を持っているんです。ただ、タイトルだけ見ると何をやっているのか、分かりませんので、実際に、この先生はこんな感じだよっていうのがどっかで情報として入ってくると、生徒たちが来やすいのかな、と思います。

山崎会長

市民カレッジっていうとなかなか、中学生、高校生は対象としていないのではないかと受け取ってしまいます。土曜日の午前中や午後の時間帯なので、生徒たちは部活動があつたらなかなか難しい。少しでも色々な人が入ってきてくれた方が、雰囲気も変わりますからね。また、木更津高専コースはどうしても専門的なことでやっているの、用語とか一般の方からどういう風に受け取られるのかなど試行錯誤しています。色々な知恵をお貸しいただければもうちょっと分かり易く面白くできるんじゃないかと考えております。今回、高専コースは中央公民館の多目的ホールを会場にしていますが、清和大学と同じように高専の校舎を会場にしたいという意見はいただいていたが、今年講義室の準備、施設、整備の方がちょっと整わないので、高専の方へ来ていただくのがなかなか難しい現状です。

橋詰委員

教室の規模は、100人以上入れる大きさですか？

山崎会長 200 人入れる教室です。あまり綺麗ではないんですが。

廣部教育長 すみません。先ほど秋元委員がお聞きのように、中高の生徒への周知については私自身あまり想定していなかったというのがあります。が、実際木更津高専コースを拝聴して、高校生はもちろん、中学生でも十分理解の出来る内容だと思いました。地元学コースに関して、地元の古墳や千葉県史に興味を持ってもらう事について、大変有効なのかなと思いましたので、本年度はもうこれから学校は夏休みですので、来年度以降積極的に発信してもらいたいな、と思います。

桂副会長 参加者のアンケートのところに、男女比が出ているけれど、女性の方が多いんですね。この講座の内容で女性の方が多いというのはビックリしました。

鍋田委員 60 歳代、70 歳代が多いですね。

事務局 地元学のコースにつきましては、女性の方が多く、高専コースは男性が多くなっています。

秋元委員 中高生って、意外と自分の通っている以外の、木更津市内の高校とか行ってみたいという人が多いんですね。だからそういう意味で、木更津高専でやるなら高専を見に行こうという子もいるのではないかと思います。中学生になり、将来自分がどの高校に行こう、大学に行こう、と色々イメージを持ち始めますので、その一つの方法として、これに参加して、清和大学や高専の状況とか、雰囲気を見ませんか、みたいな形で広報するというのも有りなんじゃないでしょうか。

山崎会長 出前講座の方ですが、報告を見ますと地域の団体の名前はありますけれど学校は利用がないのですか？

生涯学習課長 はい、学校などの教育施設・機関につきましては直接講師に依頼する形式となるため、出前講座は活用せず、報告した資料にも数字として反映されておりませんが、この課はこんなことを講義してくれるんだ、という参考にはなっているようです。

山崎会長 チラシ自体は持っていて、それを見ながら直接交渉に？

生涯学習課長 はい。公民館とか学校の授業の形態に合わせて、利用していただいております。あくまでもこの一覧表は市民団体の利用状況という事で集計しております。

山崎会長 他にいかがでしょうか。

秋元教育部長 ひとつよろしいでしょうか。情報発信についてなのですが。先ほど秋元委員から意見がありましたが、情報発信に力を入れるということについて、今まで以上に木更津市役所もやっているところです。Facebook や、公民館ですとデジタルサイネージという大きなモニターでの宣伝ですとか、そういうので色々発信をしております。ひとつ課題となっているのが皆さんに配布しているチラシについてです。チラシが文字ばかりで、どうも読みづらい、もうちょっと大きくならないのか、センスのあるようなチラシに出来ないのかといった事が今、課題としてあがっております。八幡台ならデザインとか得意な人は居ませんか。

秋元委員 そういう人は居ると思います。基本的に公民館で作るチラシは、すべてを網羅しようとし過ぎているという問題点があります。一枚のチラシに、そこまで情報を詰め込まず、結局「こういうことをやります」と大きく書く。基本的には、そんな程度で良いの

ではないかと思います。興味のある方はそれに対して、公民館へ確認を取るだろうと思っているのですが、公民館側からすると全てをチラシの中に、全部書き入れようとしてしまいます。そうするとやはり、興味のある人は来てくれるのですが、ちらっと見て面白そうだなと思う人がいたとしても、そこまでしっかりとチラシを読むかというところ、読まないのではないかと思います。私が作るチラシも細かく書き過ぎているところがあるので、その辺は自分も反省しなければいけない部分だと思っています。最初はチラシで興味を示してくれる人が多くなって、そこから次にどう進めるかって考えなきゃいけないんだと思います。

桂副会長 かなり、昔に比べたら「広報きさらづ」も見易くなっていますよね。凄く見易いなと思います。

石井委員 「広報きさらづ」は、今はA3の大きさですが、私は前のB4の大きさの方が、読み易いように感じます。

桂副会長 現代人向けになっていますから。

秋元教育部長 八幡台公民館に私がいた頃ですが、区長さんが凄く協力的でした。公民館だよりを普通に配ると全部のお宅を回りきるのに1か月近くかかるのですが、それでは情報が遅いということで、公民館だよりを受け取ったら、1週間以内に全部回すようにと区長さん方で申し合わせをして回してくれていたというのを思い出しました。

山崎会長 せっかくの機会ですので、委員の方ご自身の活動などを含めて改めて生涯学習教育の推進に関する活動について、ちょっとずつお話いただければと思います。

桂副会長 図書館審議会で、今年図書館の新館建設についての話が、話題となっております。それについて計画等がもう出来上がっているのか、興味がものすごくあります。図書館は、これから市民の方にどんどん活用してもらわなきゃいけないものですし、そのアイデア、新図書館のアイデアがあれば、ぜひ教えていただければと思います。

鍋田委員 木更津市スポーツ協会です。私は子どもたちの卓球をよく見ているのですが、卓球場のコーチがとても子どもたちの様というか、非常に挨拶に厳しい方です。その指導を受け、子どもたちは入ってくる時に挨拶をしてくれますし、私を見ると自発的にこんにちはと挨拶をしてくれます。そういう風に、自分から皆さんに挨拶したり、何かをしてもらうとありがたいと感謝を伝えるというのが、子どもたちがしっかりと身につけている姿を見て、いつも非常に感心しております。あ、なんかいいなあ、という感じをとっても感じています。それもまた、子どもたちに対して良い教育かなあって思いますし、教育者ではない人たちがそういう風に指導していただいて有難いなあって思いながらいつも行っております。私の身の回りではそういう、子どもたちの教育を指導者がしているというところで、ちょっと誇らしげに思っております。ありがとうございます。

秋元委員 私は公民館の運営審議会委員をやっております、基本的に公民館にいかん人をもく集めるか、そこを支点として考えています。公民館の今までのスタイルで行くと、お年寄り向けの催しは色々なものがあるし、子供向けは幼児向けのものならあるのですが、小学校から中学校向けのものがほとんどありません。それを何とかしようということで、地

域の中で面白そうなのが出来ないかと人を集めて企画しております。先週の土曜日は、青空シアターを行いました。これも本来は公民館の中で映画を上映していたのですが、コロナで出来なくなってしまう、屋内がダメなら外でやろうということで、始めました。当時は110人～120人程人が集まったのですが、この前の土曜日は90人ぐらいしか集まらなかった、コロナも5類に移行しましたし、もうこの企画も屋内に戻して良いのかなとも思います。ただ、子どもたちから面白かったとか、またやってと言われるので、今しばらく継続してみようかと思っております。それと先ほど申し上げたように、小学生はある程度公民館に来ますし、公民館に来る子どもたちは中学高校になっても、意外と敷居が低いのか足を運んでくれます。八幡台公民館は波岡中学校区なので、波岡中学校の校長先生とお話をし、子どもが大人にスマホを教える催しを企画しました。地域の中で中学生と大人が、スマホを教え合うことによって顔見知りになり、地域の活性化を図るというものです。本当は今年夏休み中に2回やりたかったのですが、日程的に調整がきかず8月22日に中学生によるスマホ教室、第1回目を行う予定となっております。中学生の発表する場がなかなかないというのがありますので、わたしどもまちづくり協議会の方で、無いのならこちらの方で協力して発表の場を作るよということで話をしております。こういう場を設けることで、地域の色んなお年寄りや学生等が繋がりが持てるのではないかと、現場の事を進めております。それと、7月の中頃に30代、40代のお母さん方が魚を捌いたことがないと言うので、魚の捌き方教室を行いました。たまたま私、東日本大震災の時に福島に支援に行ってその関係で漁師さんと知り合いになりました。今は漁協さんとも知り合いになっていまして、魚を大量に送って貰い捌き方教室をしました。わたしどものほうとしても、これから処理水っていうのを流されますと、風評被害もある。それを乗り越えていくにはやっぱり魚を送って貰って、捌いて、食べて、美味しさを味わうようなことも必要だろうと、そういう活動も含めて絡めていこうという事で今進めて居ります。いろいろ、地域から出てきた声の内容を具体化できるかどうかがありますが、出来るものはやっいていこう。失敗したら失敗で、ごめんなさい、って謝ろう。ただ、いろんな方からこんなことやったらって意見が出てきますので、それが面白そうだったらやろうじゃないかっていうことで進めています。そういうところで人が公民館に一杯集まってくればその中でまた新しい交流が出てくるのかなって考えて居ます。私、自治会もやっているのですが、そうしないと自治会もどんどんどん力が落ちてきていますので、その辺をどうにか、含めて、好きなことや面白いことをやってみています。

中尾委員

木更津市小中学校長会です。本年度考えているものとして、いくつかの学校行事を地域と連携して、地域との共催という形で文化祭を盛り上げていただけたらと考えております。ひとつは岩根東地区の地区文化祭です。昨年度、3年ぶりに本校を会場にして地区文化祭の方を久しぶりに開催することが出来ました。昨年度は日曜日開催という事で、子どもたちは基本、学校をお休みしてまして、希望した子、興味のある子だけが来るという形をとっていました。去年の様子を見ていると、本当に子どもたちの様子も含めて非常にいい雰囲気で開催することが出来ましたので、今年度はパワーアップ、ではないのですが、この日を登校日にしてPTAの協力も全面的に受ける形で盛大に盛り上げていけれ

ばと、ひとつ考えております。もう1点は、職場体験学習についてです。これまでコロナ禍前は、学校主導で中学校2年生で行っていたのですが、この職場体験学習についても住民会議の方の協力も得ながら、地域密着型というか、地域と根深い職業を中心に職場体験の方を復活させていけたらいいなと考えております。職場体験についても地域との共催ということを考えて居ます。

また、先日岩根公民館の方の家庭教育学級に講師として呼ばれ、その家庭学級の保護者、小中学生の保護者の方に話をする機会をいただきました。その時の質問で印象的な質問が2つあって、ひとつは「やる気のない子にやる気を出させるにはどうしたら良いですか」という質問、もうひとつが「不登校、学校に行けなくなってしまった場合に、親としてどう関わったら良いですか」という質問を頂きました。私なりに考えて調べてその時にお話をさせていただいたのですが、今の小中学生の親のニーズの一つとして参考にして頂ければ良いかなと思います。

橋詰委員

やる気のない子にやる気を出させるって、どういう風にしたら良いんですか？

中尾委員

私がお話したのは、ポイントは2つで、興味と目標のどちらかを持たせるようにしてやっていくのが良いんじゃないか。特に興味の部分はそれこそこの市民カレッジですとか、それから博物館ですとか、実物を見せるっていうのが一番興味を引き出す最善の方法だとわたくし自身個人的には思っておりますので、こういった施設をどんどん利用して、親が連れてってあげることが出来るようであれば子供のやる気がどんどん出てきますよ。というようなお話をさせていただきました。

橋詰委員

ありがとうございました。私はシニアクラブの会長をやっているのですが、誰かに興味を持たせるというのは難しく、なかなか興味を持ってくれません。どうやって興味を持ってもらうかという、やはり運動をさせることが一番良いと思うんです。ですから今年、歩く訓練の実施とか、あるいは靴の中に5ミリソールを入れてね、歩き方を楽にさせるとかね、そういう講習を皆さん方に披露させてもらっているのですが、現実それでもやっぱりなかなか興味を持ってもらえません。今シニアクラブ自体のメンバーがだいぶ少なくなっています。木更津市の市職員の方も、木更津市の老人クラブを一生懸命応援してくれないとなかなか発展しないものですから、よろしくお願ひしたいと思います。それにしても皆さん方のお話を聞いていると、やっぱり図書館の活動っていうのは大変素晴らしいと思います。社会福祉協議会の市民ホールを今まで使っていたのですが、ワクチンの関係で市民ホールが使えなくなってしまう、今もなかなか使えません。今は桜井公民館の方を利用させてもらっているんですけども、大変有効に僕たちにも使わせてもらっています。作品展示会とか、あるいは運動教室とか、あるいはグラウンドゴルフ大会とか。今度また、有志のグラウンドゴルフ大会やるのですが、市長にも招待状を差し上げているのですが、なかなか市長もお忙しいようすです。今度、4市の大会ということで、木更津の面目があります。桜井公民館で大会やるので、是非とも、ご協力のほどお願ひしたいな、と思っています。それにしても、シニアクラブのメンバーが急に少なくなってしまったので、それを増強するというのが、私の大きな役目かなと思います。よろしくお願ひします。

石井委員

青少年相談員です。木更津市の青少年相談員の方では春の4月に中学校の野球大会、

それと11月に少年少女の主張大会、というものを毎年やらせていただいております。今、新たに青少年相談員が一つにまとまってやる事業というのを考えているところで、久留里線を使ったポイントラリーというものを考えています。もうひとつ、木更津、鎌足地区の方ではコロナ前は学校の敷地内を使ってサマーキャンプというものをやっておりました。それがコロナになって4年程開催出来なくて、つい先日、キャンプという形ではないのですが、ナイトツアーという形で、学校の中を肝試しみたいな感じで歩くツアーといったものを、学校とPTAと公民館、まちづくり協議会と、青少年育成住民会議、青少年相談員等、70名ほどのご協力をいただいて実施することが出来ました。そういった内容で少しずつ模索しながら、人を集めるというか、子どもたちの為にこういう伝統を続けていけるか、今考えているということです。

原委員

木更津PTA連絡協議会です。PTAとしてはですね、コロナ禍で過去とどまっていたものが動いてきて、保護者も本当にやっていいのかと戸惑いながらも動き始めています。木P連自体も今年本格的に動き出しまして、バレーボール大会や研修会を行っております。また、バレーボール大会をこの間行った際、ママさん達にバレーボールやってくださいとお願いするのではなくて、バレーボールをやっている力を各それぞれの学校のPTAに貸して欲しい、協力してくださいという形で、お願いをしております。また、子ども達、解放されましてマスクがなくなったところですが、逆に今はマスクを外すのが恥ずかしいという子が増えています。その中でコロナ前に戻していく形として、地域の、神社のお祭りや、盆踊り等協力しております。その中でも盆踊りは子ども達がすごく喜ぶんです。夜に親に怒られずに外に出て良い、という。これってやっぱり小学校の内では分からないものなので、そういった体験ができるのは、親としても有難いと思いますし、ちょっとだけなら苦勞もして、子どもたちが笑ってくれるように過ごしていきたいと、今年から思っております。

平野委員

青少年育成会議です。うちの方としては市全体の会議としての活動がほとんどありません。各地区での住民会議の活動が主ですので、わたし自分の地区の活動しか把握しておりません。基本的に段々そういった活動を積極的にやってくれる人が減ってきている、というのは確かです。どうやったらできるんだろうと考えてはいるのですが、活動が浸透していっていないように感じています。広報とか使って、回覧で回して貰ったりするのですが、区長さんから指摘を受けたのですが、回覧板で回したって見ないよと。また、町内会の構成世帯が60から、多い方で70。下手するとその地区に住んでいる住人の半分割っているところもあるんだよと。それでも我々町内会が主体で、こういった活動をしていかなければいけないということで、非常にじり貧の状態です。町内会には入らなくても良いという風潮に多分みんななっていると思います。新しく家は建つんだけど、町内会には加入してくれない。だけど、町内としてやらなきゃいけないことはあり、しかしその活動資金はなくなる状況です。町内会が運営できなくなると、青少年の為にこういった活動も出来なくなってしまいます。だけど苦情だけは言う人はいっぱいいるんだよね、町内会に入らなくても。逆に言うと町内会って今度そうなってくると、町内会の役員をやってくれる人もいなくなってしまいます。非常に今いろんな地区全部が抱えている問題で、ある特定

の活動をしている人たちの中でなんとかやっている、というのが私たちの地区の実情です。ですからこの後、活動を引き継いでくれる人がいるのかな、という風に思っているところですよ。

桂副会長　これ、正式名称は市民会議なの？住民会議なの？

平野委員　これは各地区によって名前が違います。市の方の名称としては青少年です。

桂副会長　青少年の市民会議？

平野委員　まあ、そういう風になっているんですけども。各地区でバラバラです。青少年育成会議だとか、住民って名前がまだついているところもあります。地区、地区で名称が違う。昔の住民会議という名称でやっていた方が活動し易かった。「住民が」子どもたちを見るんだよという言い方が出来たので。ところが青少年ってつてしまうと、青少年がやったらいいじゃないかっていう地区の大人たちが出てきます。

橋詰委員　それは自治会の下部組織とかなの？

平野委員　いえ、自治会の下部組織ではなく、別組織です。

橋詰委員　全然別の組織？

平野委員　別です。ただ、だいたいどの地区もそうですけど、その団体の中に町内会での区長さんとか会員として入ってる。だからその人たちの力を以って運営しているっていうのはどの地区も同じだと思います。

橋詰委員　じゃあ、自治会からの補助みたいなのは無いのかな？

平野委員　あります。というか、貰っているところが大半だと思います。市からの資金だけじゃ活動しきれません。

桂副会長　市の補助と自治会の補助が別？

平野委員　はい。ただ、自治会の補助があるかどうか各地区によってバラバラです。それは町内会補助が地区ごとに変わるからです。だいたいどこも各町内会から助成金とか活動資金みたいなものをいただいております。市の補助だけでは活動しきれません。

小林委員　木更津文化協会です。この活動は古いんですけども、かなり人数もいます。文化祭を中心に行事をやっております。結構活動は盛んにしています。年1回の文化散歩、日帰りで見学をして歩きます。それと新年は歌舞伎があります。木更津駅も通年、今夏の間は刺繍を展示し、その下にずっと生け花を展示しています。これが30何年続いています。

桂副会長　今全部で何人くらいですか？

小林委員　150人くらいです。

桂副会長　人数多いですね。

小林委員　みなさん頑張ってやったださっています。ただひとつ、やっぱり高齢者の集まりみたいになってしまっているのが、若い人を入れていきたいというのが、この会の目標です。もう上の方は90代の方が活躍してくださっています。

橋詰委員　若い人、入らないですよ。来てくれない。

小林委員　どうしたら良いんでしょうかね。

橋詰委員　私のところも困っているんです。

内田委員　社会教育委員会会議です。社会教育委員会会議はこの会議と同じような形なのですが、色々

な団体からみなさんそれぞれの立場で出向していただいております。その中で、社会教育の方向性ですとかを年数回にわたって協議するところでございます。例えば公民館に関する課題とかが過去にあったのですが、そういう時には侃々諤々と会議を行いました。今日、来ていろいろ感じたのは、我々この地域に住んでおりますので、この地区が発展、住みよい街になるような形で、みんなそれを思っている場に出てきているのだということです。コロナ禍の中で、色んなことが4年間ストップしていました。その中でこのきさらづ市民カレッジ等、拝見させていただいて、自分、1年生ですので、黙って聞いていたんですけども、素晴らしい講座があると思っています。ただやはりこの中でフィールドに出ていっていただいて、何か考えていただくのも必要なかなとも思います。実は昔、木更津市の矢那川が花火をあげておりました。図書館のあたりから権次郎のあたりそして、マックスバリュまで、ずーっと草で生い茂っていた関係でそこに物をどんどん捨てていくんですね。なんとかならないかなと思い、その当時一緒にやっていた仲間たちと、最初は一中と二中の生徒さん達にご協力いただいて、草刈をしてヒガンバナを植えていたんです。花が植わっていれば、みんなも物を捨てないのではないかと思います。そのまま上流の方へ登っていったら、太田中学区の生徒さん達もお手伝いくださいました。それをちょっと思い出しまして、このきさらづ市民カレッジ、是非、コロナ禍が改善されたので、そういう所もエッセンスに加えていけたらなあと思います。特に地元学コースになら、そういうことが出来るんじゃないかな、と思いました。その中で、冒頭皆様ひとりひとりのお話を聞いていると、たぶん思いは一つなんだと思います。その思いを、こういった協議会等でお話を聞けることは自分にとっても糧になりますし、皆さん方にとっても糧になるかと思いますので、それぞれの現場に持ち帰ってまた、それを広めていただけるような、そんなことが出来たらと思います。

山崎会長

ありがとうございます。この3つの中で主策になっているのが、木更津市民カレッジという事業です。うちの学校なんかも7回分開催を予定しているので、今後、来年以降にどんなかたちでやるとしても、ひとつはやはり市民の方がいろんな面で学びを継続するっていうこと、それから課題であった、子どもたちと、まあ外の人と繋がりを作る、いろんな問題を解決するきっかけになるとよいと思います。

他地域の事例で、町内会の高齢化が進み、色々な活動がやはり継続できなくなっている事を聞きますし、子ども会がその代表だって話を聞いておりますので、町内会・子ども会が繋がって活性化されれば波及効果もあるのではないのでしょうか。

事務局の方から補足はありますか？

事務局

補足は有りません。

山崎会長

では、議事の方はこれで全てになりますので、事務局の方に進行をお返しします。

事務局

はい、長時間渡りまして貴重なご意見を頂戴しましてありがとうございます。今後とも、本市の生涯学習活動推進の為、皆様のご支援とご協力をお願いしたいと存じます。本当にありがとうございました。

それでは、令和5年度木更津市生涯学習推進協議会第1回の会議を終了させていただきます。